

EPA ハノイ便り

3月号

平成 31年 3月 22日

ARCベトナム校発行

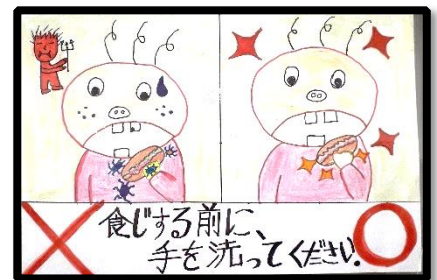
~ 社会文化の授業 *~*

第7陣が開講してから、2か月が過ぎました。開講当初は緊張気味だった候補者も、今は研修所の生活に慣れて、笑顔で授業を受けています。1月末からは2学期が始まり、習ったばかりの日本語を使って、新しいクラスの友達や先生とも積極的に話しています。



1位に選ばれた11組のポスター

3月に行われた社会文化の授業では、病気の予防について勉強しました。集団で生活する際に気をつけなければならない感染症や、その予防について講義を受け、意見交換をしたあとで、グループにわかれて自己啓発ポスターを作りました。先生方の投票で優秀作品に選ばれたポスターが研修所内に掲示されています。



2位と3位に選ばれた10組と14組のポスター

また、別の日には、日本語の手話を習う授業もありました。この授業では、国によって手話が違うことや、手話のなりたちなどを学びました。将来、日本の施設や病院で働いたときに、耳が聞こえない方と接する機会があるかもしれないので、候補者はみな熱心に手話の練習に取り組んでいました。3時間半という限られた授業時間でしたが、たくさん手話の練習をして、挨拶や簡単なことばを手話で表現できるようになりました。

授業の後半では、日本語の歌に手話をつけて練習しました。1〜4組は「ビリーブ」、5〜9組は「翼をください」、10〜14組は「大きな古時計」を練習し、クラスごとに発表しました。日本語の歌を覚えて歌うのは大変でしたが、手話は授業中に覚えることができました。発表も上手にできたので、みな自信がついた様子でした。手話の授業が終わって

からも、教室でクラスメイトや先生と簡単な手話を使って挨拶をしたりしています。これからも忘れなように、ときどき使ってみたいと思います。

ハノイの研修所には、日本人の先生もたくさんいますが、実際に日本へ行ったことがある候補者はほとんどいません。社会文化の授業で、日本の社会や文化について勉強したり、実際に体験してみたりすることは、将来、候補者が日本で働くときに役に立つでしょう。これからもたくさん日本のことを学んで、日本で働く日のために、イメージを膨らませてもらいたいと思います。



~ 手話の練習と発表風景 ~

